

群 教 セ	J01 - 01
	平15.213集

一人ひとりの人権意識を高める 学習活動の工夫

- 自他を大切に思う児童の育成をめざしたテーマ学習「わたし
あなた みんな」を設定して -

特別研修員 三田 美智子

《研究の概要》

本研究は、テーマ学習「わたし あなた みんな」を設定し、自他を大切にしようとする意識を高める人権学習の工夫について実践的に研究したものである。本研究でのテーマ学習とは、朝の活動・道徳の時間・学級活動やふれあい体験活動を横断的に関連させた学習活動である。児童一人ひとりが、このテーマ学習に対し自分のめあて達成に向けて主体的に取り組むことにより、自他を大切にしたいと思う気持ちを高めていくための実践である。

【キーワード：人権意識 人権学習 道徳 学級活動 体験活動 テーマ】

主題設定の理由

人は、集団や社会の中で、多くの人とかかわって生きている。しかし、日本人の多くが、ありのままの自分をさらけ出せる人間関係を築きたいと願いながらも、自己主張は回避し、自己を抑制することで人間関係を継続しているのではないだろうか。国際化の波が押し寄せると同時に、異なる文化をもつ人々との出会いは今後確実に増えるであろう。どのような場合であれ、どのような立場であれ、人は大切にされたいと強く願い、同時にその権利も有している。

本学級の児童(6年生女子7名、男子11名)は、最上級生として、様々な場面で学校のリーダー役を務めている。下級生の世話をしたり、運動会のような大きな学校行事にも計画作りから主体的に参加したりすることにより、自分の考えだけではなく、相手の意見や考えを尊重しなければならないことには気付いている。また、小学校入学以来同じクラスであり、少人数のため、互いに気心が知れ、目立った対立は少なく、男女の仲も比較的良い。クラスの良さをあげさせると、「明るい、おもしろい、元気、協力的、やさしい、仲がいい」といったような答えが多く、このクラスに居心地の良さを感じている児童が多い。

しかし、こうした児童も、中学校に進学した後は、これまでの環境とは異なり、多様な価値観をもった人々との出会いにとまどう場面が増えてくるであろう。今後、子どもたちがどのような集団の中に身をおこうと、良好な人間関係を築いていってほしい。その際の良好な人間関係とは、温かく、心地よく安心できる人間関係ではないだろうか。

温かく、心地よく安心できる人間関係を築くには、異なる様々な立場を理解し、その人権を尊重し、多様な価値観を認め、思いやることが必要であろう。そのためには、自分の価値観や自分の様々な側面を知り、自分が大切な存在であることに気付くことも必要である。なぜなら、自分を大切だと思えなければ、他者を大切だと思えないと考えるからである。他人は、自分とは違う価値観をもって生きている。自分とは違う価値観をもった人、自分とは違う「人」の存在を認め、自他を大切に思うことが人権意識を高めることにつながると考え本主題を設定した。

研究のねらい

お互いを大切にしようとするプログラムや活動を取り入れた朝の活動・道徳の時間・学級活動、幼児とのふれあい活動を組み合わせたテーマ学習「わたし あなた みんな」を設定し、それに一人ひとりがめあて（わたしの人権宣言 - なりたいわたし）を明確にして取り組むことにより、自他を大切にしようとする人権意識が高まることを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 帰りの会や学級活動において、自分をふりかえる活動、めあて（わたしの人権宣言 - なりたいわたし）を明確にもつ学習を行うことにより、自分を大切にすることに気付き、自分を大切にしようとする気持ちを高めようとするであろう。 テーマ「わたし」
- 2 朝の活動・道徳・学級活動において、めあて（わたしの人権宣言 - なりたいわたし）の達成に向けた学習を組み合わせる行うことにより、自分と友達との考えの違いに気付き、自分や友達を大切にしようとする気持ちを高めていくであろう。 テーマ「わたしとあなた」
- 3 保育所でのふれあい活動において、めあて（わたしの人権宣言 - なりたいわたし）の達成度をより高めることをめざした体験活動を行うことにより、自分や友達だけでなく、普段はかかわることの少ない人たちも大切にしようとする気持ちを高めていくことができるであろう。 テーマ「わたしとみんな」

研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 用語の説明

ア 「人権意識を高める学習活動」とは

本研究では、「人権意識」を「人が生まれながらにして持っている権利・人として生きていく権利・人間が人間らしく誇りをもって幸せに生きる権利を大切にしようとする気持ち・思い・願い」としてとらえる。「人権意識を高める学習活動」とは、その人権意識を児童が主体的に高めていこうとする学習活動である。

イ 自他を大切に思う児童の育成をめざしたテーマ学習「わたし あなた みんな」とは

本研究での「自他を大切にすること」とは、「自分自身に対して肯定的な感情をもち、自分の良さに気付き、自分に自信をもつこと、及び、他者に関心をもち、自分と他者との価値観の違いを理解し、他者を意識して思いやること」と考える。

また、本研究でのテーマ学習「わたし あなた みんな」の「わたし」とは自分自身、「あなた」とは友達、「みんな」とはかかわりの少ない人たちも含むすべての人たちを意味している。学習が深まるにつれ、児童の関心を「自分自身」「友達」「みんな」と広げていくことを意図している。

ウ 「わたしの人権宣言 - なりたいわたし」とは

児童一人ひとりが自分をふりかえり、新たな自分をめざすめあてを「わたしの人権宣言 - なりたいわたし」とする。このようにめあてを明確にして学習に取り組むことにより、めあての向上をめざし、主体的に学習に参加できると考える。以下、「わたしの人権宣言 - なりたいわたし」は『人権宣言』と略記する。

エ 「保育所でのふれあい活動」とは

校区に位置する保育所は、児童のほとんどが通っていた場所であり、自分が大切にされてき

たことを思い起こすことのできる場所である。その保育所で、普段は交流することのない幼児の世話をすることにより「自分も役に立った」という達成感が生じる。それにより児童は、自己肯定感と他者を大切にしようとする気持ちを高めていくと考える。

(2) 全体構想図(図1)

2 実践の概要及び結果と考察

検証にあたっては、学級全体の学習活動の様子、児童一人ひとりの学習後のふりかえりカードの分析、抽出児A(まじめで明るく友だちとの関係も良好にみえるが、自分に自信がもてない男子児童)の観察を中心に行う。

テーマ学習のクラス全体のめあてとして、話し合いや発表の場面では、「聞き手に分かるように話す」こと、自分とちがう考えであっても批判せず、「うなずきながら聞く(傾聴)」ことを「テーマ学習の約束」として確認した。また、教師はファシリテーターとして、参加者である児童と共に考え、共感する役割を担った。その際、児童の意見を否定せずに受け入れ、どの意見も取り上げ、参加者である児童全員が意見を共有できるよう心がけた。

(1) 自分を大切にすることに気付き、自分を大切にしようとする気持ちを高めようとすることができたか。

ア 実践の概要

帰りの会では、いろいろな側面をもつ自分に気付くために、5日間に分けてアンケート「なりたい自分」や「自分をふりかえるアンケート」を実施した。

学級活動では、人を大切にするととはどんなことかブレーストーミングした後、『人権宣言』を考えた。『人権宣言』決定後は、「これからテーマ学習で『なりたいわたし』をめざして学習を進めよう」と呼びかけた。

イ 結果と考察

帰りの会で行ったアンケート「なりたいわたし」では、「今のままでよい」との答えが多く、自分をすでに肯定的にとらえている児童が多いことが分かった。

学級活動のブレーストーミングでは、「テーマ学習の約束」に沿って、普段は発言の少ない児童も自由活発に意見を述べ合っていた。話し合いの中で出てきた「人を大切にすると自分も大切にすることでもある」という児童の意見を全員で共有し、自分を大切にすることに気付いていった。

『人権宣言』を大別すると、資料1のようにな

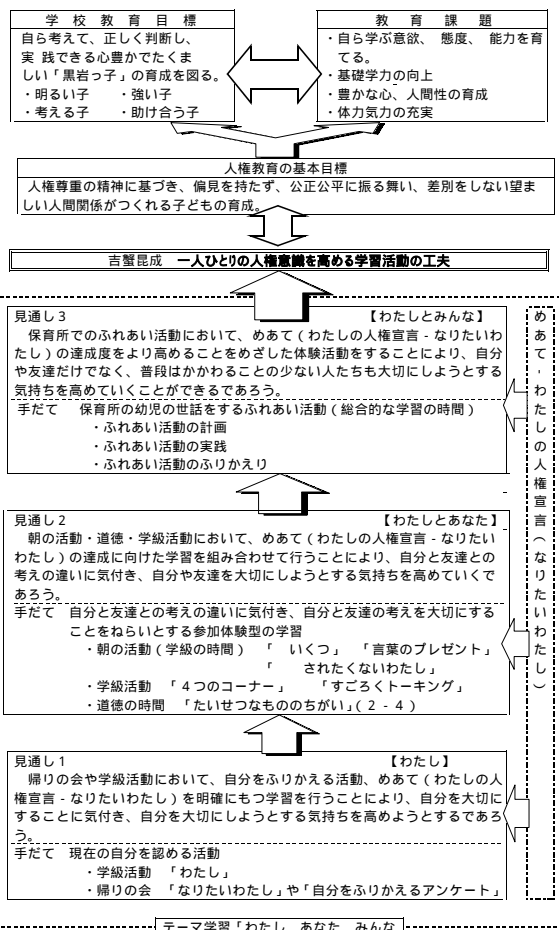


図1 全体構想図

(見通し1 - テーマ「わたし」)

資料1 『人権宣言』の内容 各自2つ - 計36

- ・「自分の意見をはっきり言う」等、自分自身の向上をめざしたもの - 11
- ・「他の人の意見に左右されないで自分の考えで行動する」等、相手を意識してのもの - 12
- ・「相手が傷つかないように話をする」等、相手を思いやるもの - 13

った。内容としては、「自分をふりかえるアンケート」で点の低かった項目が83%（36項目中30）を占めており、自分を向上させたい、自分を大切にしたいという切実な願いが伝わってきた。

Aは、「自分をふりかえるアンケート」で30項目中12項目に自信のなさを示していたが、よく考えた結果、『人権宣言』は「相手の気持ちを考えながら話をする。友達と意見がちがっても意見を言う」に決めた。友達の気持ちを考えながらも、その考えには左右されたくない、自分の考えを大切にしたいという思いの強さが見て取れた。

学習後のふりかえりでは、18人中17人が「自分は大切である」と答えたことから、自分を大切にしようとする気持ちは高まってきていると考えられる。しかし、1人は「自分を大切にすることには気付いたが、なぜ、自分を大切にするのかまだよくわからない。」と答えていた。この段階では、まだ人権意識の高まり方にはかなりの差がある。

(2) 自分と友達との考えの違いに気づき、自分や友達を大切にしようとする気持ちを高めていくことができたか。

➡(見通し2 - テーマ「わたしとあなた」)

ア 実践の概要

まず、道徳の時間に、人権絵本「ちがいをゆたかさに」を用いて、「何が大切か」を個人で考えた後、班になって自分の考えを話し、それを班ごとにまとめて発表した。

学級活動 では、自分の考えと同じ場所に移動し、互いにその理由を話し、傾聴し合った。

学級活動 では、すごろくをしながら、「宿題は必要か」「好きな季節とその理由」など、駒が止まった場所の指示に従って、自分の思いや意見やその理由等を話し、傾聴し合った。

朝の活動 では、自分で自分の良さを見つける、友達に自分の良さを見つけてもらう、友達の良さを見つける活動を行った。朝の活動 では、人にされたくないことはどんなことを全員で共有した後、自分がされたくないことを考え、宣言した。

イ 結果と考察

資料2は、道徳の時間と学級活動後のふりかえりである。普段、自分の考えと友達が同じことに安心感をもつ場面が多かったが、多数の児童(印)が、自分と友達では意見が違うことに気付くと同時に、そのことに驚いていた。特に、学級活動 では、一人だけ意見がちがうこともあったが、臆することなく理由を述べられるようになっていた。また、友達の考えを否定せずに耳を傾けることにより、友達の考えを理解し、その友達の価値観を大切にしたいと思うようになったことがわかる。

資料2 「ふりかえりカード」から

- ・自分とちがう意見をもっている人がたくさんいることに気が付いた。6人
- ・みんなの考えがちがうことに気が付いた。5人
- ・結構ちがう考えをもつ人がいて驚いた。1人
- ・意見のちがいにびっくりした。1人
- ・友達のことが少しでもわかったのでよかった。3人
- ・いろいろな人の考えがわかった。2人
- ・みんなの気持ちがわかった。1人
- ・自分とちがう意見の人の理由を聞いて、いろいろなことがわかった。(A)
- ・わたしたちもパングラデシユも親が大切とわかりよかった。3人
- ・今まで考えたことのないことを考えられた。1人
- ・家族も大事だけど命(自分)も大事1人
- ・友達の意見を聞いて変えようかなとも思った。1人
- ・みんなそれぞれのいけんがあつてよかった。1人

(重複回答)

資料3は朝の活動 実施後のふりかえりである。「ぼくは元気だと思われていておどろいた」という児童のように、多くの児童が自分を再発見(印)し、友達に自分の良さを見つけてもらい、自分に自信がついてきたようである。また、友達に関心を向けていなかったためか、友達の良さをすぐに見つけられず悩んでいた児童も、友達について考えることの大切さに気付いた(印)ようであった。

朝の活動 の実施後は、「自分のされたくないことは、友達もされたくないことだと思

資料3 「朝の活動のふりかえりカード」から

- ・みんなが自分のことをどう思っているかよく分かった。8人
- ・自分のことがよくわかった。6人(Aを含む)
- ・自分のいいところをたくさん見つけてもらってよかった。2人
- ・友達のことを考えることができた。4人(Aを含む)
- ・自分や友達について考えることができたのでよかった。3人
- ・同じ人についてみんながちがうことを考えていてもしるかった。1人
- ・これからも人の良さをみつけていきたい。1人
- ・いろいろな人の考えが聞けてよかった。1人

(重複回答)

った。自分も大切にしたい友達も大切にしたい」というように、全員の児童が「自分がされていやなことは友達にもしない」と答えていた。中には、「自分でも気付かぬうちに傷つけたり傷つけられたりしてるんだなあ」とあらためて思った。ふざけていた一言も笑っていた一言もきっと人を傷つけてしまっているときがあると思う。自分だっていやな気分になるときがあるし、他の人もそうだと思う。だから人としゃべるときは言葉を選びたい」のように、友達と自分との関係についてかなり深く考えられるようになった児童もいた。

Aは、朝の活動 実施後に、「いいところがたくさんあるんだな。自分にかかなり自信がついてきた」と答えた。自分に自信がなかったAだが、自分では気付いていなかった良さを友達からたくさん教えてもらったことにより、自己肯定感を高めることができたのだと考えられる。「されたくないわたし」では、「悪口をいわれること・変な噂をされること・なかまはずれをされること・ずるいこと・暴力をふるわれること」を力強く宣言した。自分に自信がつき大切にされたいと心から願ってのことであろうと考えられる。

以上のことから、自分と友達との考えの違いに気づき、自分や友達を大切にしようとする気持ちを高めたと考えられる。

(3) 自分や友達だけでなく、普段はかかわることの少ない人たちも大切にしようとする気持ちを高めていくことができたか。 ➡ (見通し3 - テーマ「わたしとみんな」)

ア 実践の概要

保育所は、4クラスに分かれているので、児童も希望により4班に分かれた。その班で、具体的なふれあい活動の流れについて細かな計画を立てた。

実際の活動では、年長組は粘土、年中組は歌やいすとりゲーム、年少組は折り紙やお絵かき、3才児以下の組は読み聞かせや積み木遊び等を行った。

イ 結果と考察

幼児の世話をするのは初めての児童が多かったが、活動計画を立てるときから、「早くやりたい」と意欲にあふれていた。活動の最初は、互いに遠慮がちに接していたが、徐々にうち解け、次第に声をかけ合う場面がふえていった。3才児以下の子どもたちを希望したAも、ふれあい活動が始まったばかりの頃は、緊張気味であったが、「お馬さん」や「肩車」に喜ぶ姿を見て、自然に笑みがこぼれるようになった。終わった後、「また来てね」と手を振る幼児の姿を見て、とてもうれしそうであった。

帰る途中、児童の顔はうまくできたという自信と満足感にあふれた様子であった。それは、18人中17人の児童が保育所で「役に立った」(図2)と答えていることから分かる。「あまり役に立たなかった」と答えた児童は、このふれあい活動により「小さい子や知らない人にも大きい声で話すこと」を学んだと答えている。普段から人と話すのが苦手な児童が、保育所での活動により、相手に応じて大きい声で話すことの必要性を感じとらせたのたのただろう。この児童にとってもこの活動は、有意義なものであった。

活動前の幼児のイメージは、「わんぱく、元気がいい、すぐ泣く、わがまま、うるさい、言

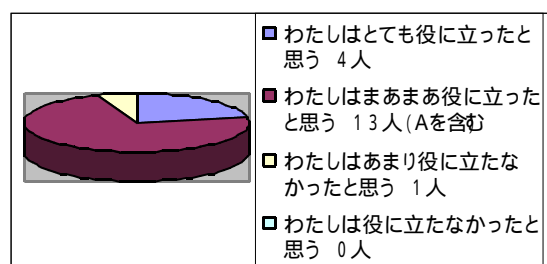


図2 「保育所では」

資料4 「ふれあい活動」のふりかえりから

- ・3才児以下の子でもしっかり言うことをきいけるんだなとびっくりした。
- ・おりがみをおっているとき、思っていたよりも上手だったので、びっくりした。
- ・みんな思ったよりもむずかしかったのに、上手にできていたのでとてもびっくりした。
- ・けんかなどで泣いたりする子はいなかった。
- ・小さい子と遊ぶのは意外とおもしろかった。(A)
- ・泣く子、笑う子、それぞれの個性が強く一人ひとりがとても元気だった。
- ・おやつの時に3才児以下でもいっぱい食べてびっくりした。
- ・みんながちゃんということをお願いしてくれた。
- ・粘土は思ったよりうまかった。
- ・本を読んでいる時、静かにしてくれた。
- ・みんな大きな口をあけてすごく上手に歌っていたで、驚いた。

うことをきかない、無邪気、扱いづらい」等であったが、資料4から分かるように、実は幼児でもいろいろなことができることに驚いたようだ。そのことにより、「たとえ小さい子でも大切にしたい」「小さい子もいろいろな考えをもっている」のように、幼児の人格を認め、大切にしなければいけないことに気付いたのだと考えられる。(資料5)

Aのお礼の手紙(資料6)にあるように、Aも幼児が予想以上に自立していたことに驚いていた。この体験が、幼児に限らず、「できるだけ相手の気持ちを考えて接してあげたい(資料5)」という気持ちにまで高めたのではないだろうか。

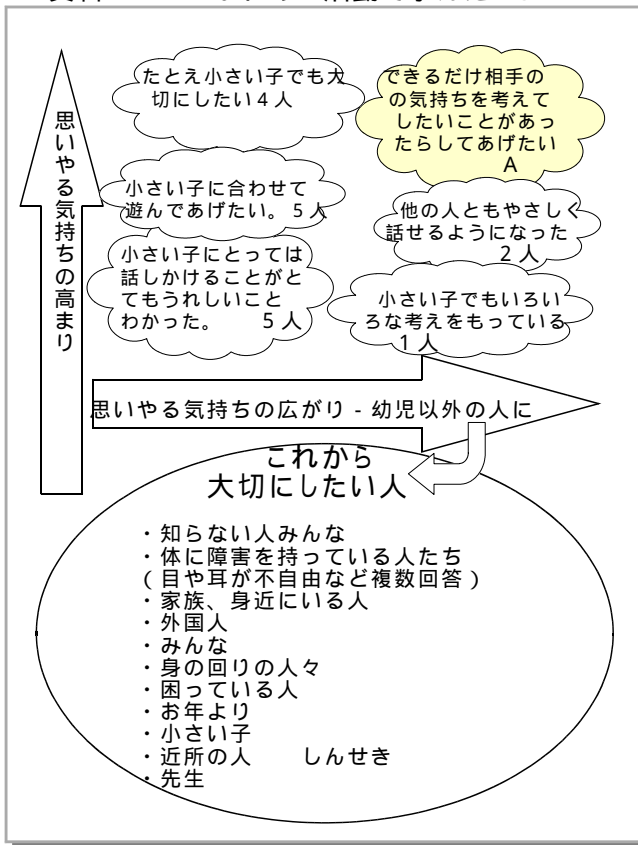
「これから大切にしたい人」を見ると、「体に障害をもっている人たち」のように、普段接する機会の少ない人たちも含まれている。この初めての幼児とのふれあい体験の成功が、「自分の身近な人を始め、普段はかかわりの少ない人たちとも接してみたい、自分にも大切にできるのではないだろうか」という気持ちに高めたと考えられる。

ある児童はこの体験活動について「一生忘れない」と語り、教師が期待した以上にこの活動が児童に与えた影響は大きかったようだ。

その後、児童はこのふれあい体験活動を、「なかよし遊び(朝の縦割り活動)で(12人)朝の登校時で、(3人)普通の遊びの中で(2人)小さい子が困っている時に(1人)生かしている」と答えている。確かに、なかよし遊びでは、遊びのルールを工夫したり、下級生の意見を積極的に取り入れたりなどして、下級生への心配りをする場面がこれまで以上に随所に見られ、生き生きと取り組んでいる。

図3は、各自のめあてである『人権宣言』に近づいたかどうかの各学習後の結果である。1回目は、道徳終了後、2回目は、学級活動終了後、3回目は、テーマ「わたしとあなた」が終了後、4回目はすべてのテーマ学習が終わった後の結果である。学習が進むにつれ、「なりたいたわたし」に近づいている(Aは4回目で近づいた)が、自分が納得できるほどには近づいていない児童もいる。その後しばらくして、同じ班の友達同士で「なりたいたわたしに近づいているか」を評価し合ったところ、「まだあまり近づいていない」と考えていた児童も「みんなからいい評価をもら

資料5 ふれあい活動で学んだこと



資料6 Aのお礼の手紙

11月19日に保育所ふれあい活動をさせていただきありがとうございます。ブロックで遊んだりしたときに自分で作って遊んでいたのにおどろきました。その車をさらにかいぞうしていろいろな物を作ったりしました。ジュータンを作るうと言ったときにどンドン必要なブロックを持ってきてくっつけていたのもおどろきました。馬などになって遊んであげたときによるこんでもらえたのがよかったです。

きょうなたいけんをさせていただきありがとうございます。

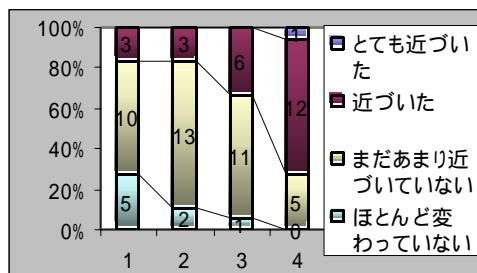


図3 なりたいたわたしに近づいたか

ったのでよかった(1人)、自分ではあまりできていないと思ったがまあまあの評価をもらった(3人)、いい評価もあったのでもっとがんばる(1人)」と、友達からの高い評価に安心した様子であった。

研究の成果と今後の課題

1 研究のまとめ

自他を大切に思う児童の育成をめざしたテーマ学習を設定し、そのねらいを達成するために、児童が「なりたいわたし」をめざして学習に取り組んだことにより、「さらに自分をよくしたい」「他の人に左右されたくない」「いやなことは決してされたくない、したくない」等、自分を大切にすることの重要性に気付くと同時に、大切にしたいという意識の高まりを自分自身で確認しながら学習できた。

児童自身が自分の意識の高まりを確認しながら、自分や友達の考えを大切にしたい学習を通して、自分や友達の良さを再認識したことにより、自分に自信をもち、「相手の思いや願いを考えよう」等、相手を意識して気遣おうとする場面が増えてきた。

自他を大切にすることを高めた上で幼児の世話をしたことにより、児童一人ひとりが普段かかわり合うことの少ない人たちに対しても思いやりの目を向け、「どんな相手であっても大切にできそうだ」「いろいろな人とふれあいたい」等、他者に対する人権意識をより高めることができた。

2 今後の課題

「なりたいわたし」「されたくないわたし」は、短期間のうちに達成されるめあてではない。今後も児童の願いとして継続して取り組ませていきたい。そして、「小さい子にも人格があるのだから大切にしたい。知らない人も大切にしたい」といったような児童一人ひとりの人権意識の高まりの成果を大事にしながら、何よりも教師自身が、児童一人ひとりの思いや願いを今後より一層大切にしなければならないと考える。

参考文献

- 河村 茂雄 著 『グループ体験による学級育成プログラム』 図書文化(2001)
- 岩川 直樹 著 人権の絵本 『ちがいを豊かさに』 大月書店(2000)
- 角田 尚子・ERIC国際理解教育センター 著 『人権教育 ファシリテーター・ハンドブック 基本編』 ERIC(2000)